

ハ次項ニ述フル數種ノモノヲ使用セリ。

一般人ニ於ケル豫防狀況

遊客ニアリテハ智識階級ノ人又軍隊等特種ノモノニ於テハ洗滌又ハ「サツク」等ヲ使用スルモ其他ノ者ハ殆ント無頓着ナルカ如シ群馬縣外十六縣ヨリ蒐集シタル最モ普通ニ販賣セラレ居ル花柳病豫防具ハ「ハート」美人、「キヤラメルゴムサツク」、「ヤヨイル」デサツク、「敷島」サツク、「子宮」サツク、等ノ名稱ヲ附シタルモノカ主ナルモノナリ、豫防藥ニハ「サーナー」、「セモリ」、「子宮特效藥、花柳病豫防」クリーム「カトウソルガー」、「星」サンデー、「フルミナル」、「バラタイス」、「シクロ」、「ラミイ」投入藥、「サンデー」、「アイマス」、有田ドラック防菌劑等カ主ナルモノナリ、大正十三年中ニ於ケル之等賣高ノ概數ハ第五表ニ掲クルカ如シ。

百五、大正十二年中ノ

花柳病豫防具及豫防藥品名並ニ賣高

府縣別	豫防具名	豫防具賣上高	豫防藥名	豫防藥賣上高
島根	一、ハート美人 一、キヤラメルゴムサツク 一、やよいルーデーサツク 一、子宮サツク	六七八五二 五八〇〇 五六〇〇 六三六	一、サーナー 一、セモリ 一、子宮特效藥	一八四九 一八〇 一二五〇

山 口	三 重	神 奈 川	愛 媛	新 潟	熊 本	福 井	奈 良
一、ハート美人 一、ルーデサツク 一、敷島サツク 一、子宮サツク		一、男子用サツク	一、男子用サツク	一、ルーデサツク	一、サツク	一、ルーデサツク	一、サツク
二八、七四八 八九、一七七 三、三七二 一、〇二〇		年百クロス			少 量	三五〇	少
一、サーナー	一、花柳病豫防クリーム カトウソルガー (一名藥液ルーデー)	一、サーナー 一、セモリ	一、サーナー 一、セモリ類			一、星サンデー、一、セモリ、 一、サーナー、一、フルミナル、 一、バラタイス	一、セモリ、一、サーナー
一、〇三九	二、二八三	六、〇〇〇					少

府縣別	豫防具名	豫防具賣上高	豫防藥名	豫防藥賣上高
青森	一、サツク	少シ	一、シクロ、一、サーナー、一、セモリ	少シ
兵庫	一、ルーデサツク、一、子宮サツク	—	一、ラミイ投入薬	—
山形	一、ルーデサツク	相當	一、シクロ、一、セモリ	相當
愛知	一、ルーデサツク	相當	一、シクロ、一、サンデー、一、サーナー、一、アイマス	相當
滋賀	一、サツク	少シ	一、サーナー	少シ
富山	一、ルーデサツク、一、子宮サツク	—	一、サーナー	—
千葉	—	—	藥品名下明	六、六三四
群馬縣 (前橋市内 十三年中)	一、ルーデサツク 二、子宮サツク	五七二ダース (三二六個) 九六個(八四個)	一、サーナー 二、セモリ 三、有田ドラック防菌劑	四五個(八二個) 四五個(二八個) 二〇〇個(三〇個)

第五編 公娼制度ニ關スル輿論ト私見

第一章 廢娼論ト存娼論

娼妓廢スヘキカ妓樓存スヘキカ賣笑制度ノ存廢、其何レカ是カ非カ人類社會ノ幸福ノ爲ニ少クトモ我日本國民ノ花柳病豫防ノタメニ採ルヘキ岐路ハ右カ左カ、體面論ヤ道德論ノミニテ決スヘキニアラス吾國社會狀態ノ現狀ニ照シ花柳病豫防ト云フコトニ直面シテ此問題ヲ考察セムトス先ツ廢娼論ト存娼論トニ關スル兩者ノ主張ニ付代表的ノモノヲ集録シテ參考ニ供セン。

第一節 廢娼論者ノ主張

廢娼論者ノ主張ヲ列舉スレハ大體次ノ如シ。

一、最悪ナル奴隸制度ハ公娼テアル如何ナル賣淫制度ニテモ不可ナルハ勿論テアルカ、今假ニ之ヲ以テ必要缺クヘカラサルモノナリトセハ宜敷之ヲ自由營業トセヨ即チ自己一個ノ發意ヲ以テ厭フヘキ此業ニ從事シ何レノ日ヲ問ハス當人ノ希望ニ任セテ廢業スルヲ得ルモノタラシムル方カ宜シイ、斯クスレハ一夜ニ二十人ノ嫖客ヲ強ヒラル、コトモナク病氣ノ場合ナト必要ナル期間休養スルコトカ

出來ル、或人々ハ若シ公娼ヲ廢シタ曉ハ私娼カ更ニ其數ヲ増ステアラフト憂慮スルモ、却テ私娼ハ公娼ノ所在地ニノミ繁盛スルノテアル、淺草ニ於ケル私娼ノ數カ吉原ノ公娼ヨリ遙ニ多イノハ著シイ實證テアル、又統計ノ示ス處ニ從ヘハ公娼ハ之ニ鑑札ヲ與ヘ其惡徳ヲ一般ニ明示スヘキ檢印ヲ押捺シタリトテ決シテ病毒ヲ鎮壓スル所以テナイ寧ロ病毒ノ傳播者タラシムル傾向ヲ助成スル、吾人ハ今ヤ貴重ナル五萬ノ娘子ヲ犠牲トシテ一ツノ病毒ノ蔓延ヲ根絶スルカ如キ無効ナル企テヲ止ムヘキテアル。

各國ニ於テ多少ノ賣淫ノ存在スルハ免レナイ事テアル公娼制度ヲ辯護スルモノハ曰ク公娼ハ所謂檢微セラル、カ故ニ微毒傳播ノ危險カ少ナイ、故ニ賣淫ノ到底避ケ得ヘカラサル事實ヨリ見テ定期ニ檢診ヲ受クル此種ノ賣淫制度ヲ存スルハ寧ロ利益テアルト云フノテアル、サレト賣淫ヨリ生スル諸種ノ疾病ハ現在行ハレテ居ル迅速簡單ナル診斷ニテハ見出シ難イモノテアル寧ロ無法ナル診斷法テアル。

二、公娼制度カアルカラ私娼カ跋扈スルノテアル。

三、五萬ノ公娼ヲシテ一千有餘萬ノ男子ノ性慾ヲ緩和スルコトハ不可能テアル。

四、公娼アルカタメニ性慾ノ刺戟ヲ受ケ男子ノ好奇心ヲ唆ルノテアル。

五、尊キ貞操ヲ犠牲ニシテ願ミサル制度ハ撤廢スヘキテアル。

六、公娼ヲ廢シタ爲メ私娼カ出來花柳病カ流行スルトシテモ其レハ自己カ求メタ罪ノ結果テアル然ルニ公娼ハ強イラレタル悲惨ナ運命ニ泣ク者テアル國家ヤ親兄弟カ是認シタル非人格的行爲テアル親タル者ハ其娘ヲ賣リテ忌ムヘキ生活ヲ送ラシムルヨリハ寧ロ餓死スルノ優レルヲ採ルヘキテアル國家ハ人肉ノ賣買ヲ認メナカラ一面ニ於テハ婦人ノ姦通ヲ罰スル矛盾ヲ敢テシテ居ル。

七、金錢ニ依ツテ性慾ヲ滿スコトヲ國家カ公認スルト云フコトハ文明國トシテ有リ得ヘカラサルコトテアル何事テモ改廢サレタ直後ニ起ル缺點ハ一時的ノモノテ暫時ニシテ改善サレルモノテアル。

八、男子ノ不節操ナル獸的遂行カ公娼ヲ造ツタノテアル存娼論者ハ性的衝動ヲ如何ニ解決スヘキカラ云フテアラウ其レハ獨リ男性ノミノ問題テナナイ一般女性カ忍耐ヨク節操ヲ持スルヲ學フヘキテアル。

九、現在澤山ナ公娼カ在ツテモ私娼のナ行爲アル婦人カ澤山アル之レハ其人々ノ性格テアルカラ仕方カナイ、公娼ヲ廢止シタカラトテ急ニ一般婦人ノ貞操カ危クナツタリ私娼カ多クナツタリ花柳病カ蔓延シタリスル程日本ノ男性ハ獸的テハアルマイ。

十、男子ノミカ公娼或ハ私娼ニ依ツテ性慾ヲ處置セネハナラヌ程必要ニ迫ラレテ居ルテアラウカ男性ノ性慾ハ其程仕末ノ惡イモノテナナイ永ク傳統ノ流レハ娼妓ヲ相手ニ遊フコトヲ粹トシ其經驗ノ無イ者ハ恥テアル如ク考ヘル輩サへ出來タ公娼ヲ廢スレハ私娼モ跋扈スルカラ廢サレヌト云フノハ

「ドウモ盗マレルナラ何物カヲ盜賊ニ供ヘテ置ク」ト云フ様ナモノテアル。

十一、賣笑婦ノ絶滅ハ困難テアツテ人類永遠ノ問題テアル、ケレトモ公娼ノ廢止ハ何時テモ出來ル寧
口直ニヤルヘキ問題テアル公娼ノ廢止ハ却テ風儀ヲ改善シ花柳病患者ヲ減少スル其レハ群馬縣ヤ英
國等ノ實例カ證明スル和歌山縣ハ反對ノ實例ヲ以テ其ヲ證明ニ裏書ヲ與ヘテ居ル。

十二、男性本位ニ形成サレテ居タ舊時代ニコソ公娼ノ存置モ理由ヲナセトモ婦人ヲ水平線上ニ發見シ
タ今日ニ於テハ斯ル制度ノ存在ヲ許サヌ。

十三、群馬縣ハ全國唯一ノ廢娼縣テアル壯丁花柳病ノ少キコト、患者中ノ多數ハ他縣ヨリ歸ツテ來タ
者テアル之レカ立派ナ證明タ吾々ハ先ツ公娼ヲ廢シ然ル後私娼ヲ片付ケルノテアル。

十四、公娼ヲ廢シタトテ決シテ私娼ヲ増スト云フ事實ノ存スヘキモノテナイ、殊ニ未丁年者カ賣笑婦
ニ近ツクノハ何レカ容易テアルカト云ヘハ公娼テアル故ニ壯丁検査ノ上ニ現ハレル性病患者ノ數カ
群馬縣ニ少イノハ此點ニ基クノテアル公娼ヲ廢止スレハ私娼ヲ増スト云フノハ未タ其實際ヲ知ラヌ
議論テアル。

公然賣淫ヲスル所カアツテ淫風ヲ煽リ立テ、其レカ公娼丈ケテ納マリ附近ノ部分ニ波及セスト思フ
程御目出度イ見方ハナイ淫蕩ノ盛ナル處其處ニハ醜行カ盛ニナルノハ極ツタコトテ公娼地附近ニ密
賣淫ノ行ハレルノハ當然ノコトテアル。

公娼ト云フ制度カ存シテ居レハコソ性病ノ豫防ニハ公娼カ必要タナソト愚論ヲ云フカ若シ今日性病
ノ蔓延ヲ防止スルノニハ人ノ娘ヲ犠牲ニスルノヲヨイト云フテ新シク公娼制度ヲ設ケルトスレハ何
人モ反對スルテアラウ。

公娼制度ハ可憐ノ處女ヲ捕ヘテ強姦セシムル機關ノ公許テアル此ンナ馬鹿氣タ事ヲ平氣テ存置セネ
ハナラスト云フ無智ノ人間ノ多イニハ驚カサルヲ得ナイ云々。

十五、故島田三郎氏ノ所論要旨

余ハ公娼ヲ廢スルコトヲ主張スルト雖モ之レヲ廢スレハトテ此醜業ノ迹ヲ社會ヨリ絶滅シ得ルト信
スルモノニアラス唯法律カ之ヲ認メテ社會ノ制裁ヲ弱メ娼業カ人間羞耻ノ事タルヲ忘レシムルノ大
害ヲ除カムト欲スルモノテアル」ト主張シ公娼ノ害ニ關シ左ノ數點ヲ舉ケテ居ル。

(一) 公娼アル縣ハ私生兒多シ岐阜縣鹿兒島縣ニ公娼無キ時代ニハ其人口ニ比シ私生兒少カリシハ統計
ノ示ス所テアル又和歌山縣ニ公娼ナクシテ私生兒他ノ縣ヨリ少シ。

(二) 公娼アル土地ハ却テ密娼多シ。

(三) 公娼アラサレハ淫風社會ヲ毒スト云フモ公娼ナキ地ニシテ特ニ血氣盛リノ青年壯年ノ集レル學園
ノ地ニシテ憂フル如キ弊害起ラサルハ如何。

(四) 檢微ハ多少ノ効アラシモ病毒ヲ全滅スルニ至ラス反テ遊治郎ヲシテ恐怖ノ念ヲ去ラシメ病毒ニ感

染スルノ機會ヲ作ラシム。

(五) 賣笑ヲ法律ヲ以テ公許シ納金ヲ徵收スルノ結果ハ政府ハ之ヲ保護セサルヘカラサル結果ヲ來スヘク遂ニハ他ノ職業ト同一視シ娼婦及社會ヲシテ羞耻ノ念ヲ消滅セシムルノミナラス甚シキニ至ツテハ榮譽ノ位置ノ如ク思惟スル者サヘ生スヘシ賣淫ヲ公許スルハ恰モ賭博ヲ公許スルト同一ニシテ其弊害甚シキモノナリ。

(六) 公娼ト私娼トハ異ル、私娼ハ自ら墮落シテ社會ノ暗黒面ニ陥レル自己ノ罪惡ノ報酬テアル然ルニ現在ノ公娼ナル者ハ之ト撰ヲ異ニシ誤レル社會ノ習慣ト倫理觀念トノ二ツノ爲メニ親ニ身ヲ賣ラレテ之ニ陥ルト云フ相違カアル之カ公娼ト私娼トノ判然タル區別ノ第一點テアル、今一ツ私娼ハ一旦悔悟シテ行ヲ改メムトスレハ即時ニ止メル自由ヲ有シテ居ル之ニ反シテ公娼ハ全ク束縛セラレテ免レルコトカ出來ヌ奴隸ノ境遇ニアル之カ公娼ト私娼ト異ル第二點テアル之等ノ點ヨリ考フルナラハ公娼ヲ許スコトヲ確カニ國家的悖德ノ行爲テアルコトハ明白テアル。

第二節 存娼論者ノ主張

次ニハ各方面ニ於ケル存娼論者ノ主張ヲ掲ケム。

一、公娼ヲ廢止シタ結果私娼ヲ默許スルト云フコトハ危險極ルコトテアル公娼ノ廢止ヨリモ先ツ私娼ノ撲滅ヲ計ルコトカ得策テアル、若シ公娼制度カ虐待テアルナラハ其レハ適當ナル制限ヲ以テ取締レハ宜シイト思フ。

二、財産ナキ獨身者ノ爲メニ衛生上害ノ少キ公娼ハ必要テアル蓄妾ヲ認ムル以上ハ公娼ヲ認ムルハ必要テアル。

三、公娼ハ法律テ廢シ得ヨウカ私娼ハ如何ニシテ禁止シ得ルカ見付ケ次第法律ヲ罰スルコトハ出來ヨウカ撲滅スルコトハ不可能テアル然ラハ私娼ヨリ弊害ノ少キ公娼ヲ存置スルコトカ合理的テアル。

四、文化力進ムニ從ヒ二者何レカ、要求セラル、テアラウ公娼ヲ廢止スルコトニ依ツテ私娼ノ跋扈スルハ必然テアル社會ヲ毒スルハ却テ公娼廢止テアル故ニ私娼ヲ取締リ公娼制度ヲ改善スルカ適法テアル。

五、公娼ハ地域ト衛生トヲ取締ラル、故ニ風俗、國民衛生ノ點ニ於テ私娼ニ勝ル、日本ノ公娼制度中從業者ノ奴隸的立場、生理的機能ノ問題、營業方法等非難ノ點カ多イトシテモ其レハ改良ノ餘地アルヲ示スモノテ之レヲ公娼廢止ノ根據トスルノハ誤テ居ル、國家ノ面目ヨリモ國民ノ實際ノ風俗、衛生ニ重キヲ置クヘキテアル、性慾ノ賣買ハ罪惡ニ違ヒナイトスルモ今ノ社會經濟組織テハ其女ニ罪ナクシテ然モ最後ノ逃路ヲ此ニ見出スノ止ムナキ場合モ少クナイ、此罪惡ヲ絶滅シヤウトシタ人類ノ奮闘モ遂ニ不成功テアルコトハ過去ノ歴史カ示シテ居ル、理想論ヤ宗教論ハ此問題ヲ決スルニ

- 何ノ權威モ無イノタ今ノ公娼廢止運動ハ火ヲ消サスニ煙ヲ除カウトシテ居ルモノテアル。
- 六、如何ニ立派ナ家屋ニモ便所ハアル、性的煩悶者ニ對シ法律ノ範圍内テ調節ヲ與ヘルコトハ必要テアル公娼ハ單ニ性ヲ弄フモノトハ考ヘラレナイ廣イ大キナ社會ノタメ公娼ハ默認シナケレハナルマ
イ。
- 七、本能ハ制壓スルヨリ寧ロ善導シ惡影響ヲヨリ少クセナケレハナラヌ此意味ニ於テ公娼ハ必要テアル。
- 公娼ハ他ノ純良ナル婦人ノタメニ身ヲ提シテ病軍ノ防禦ニ當ツテ居ル肉彈トモ云フヘキテ大ナル利益ノタメノ小ナル犠牲ハ止ムヲ得ヌ。
- 八、現在ノ公娼ヲ一時ニ廢止スルコトハ二兎ヲ得ントシテ一兎ヲモ得ナイコトニナルテアラウ。
- 九、私娼ノ進歩シタモノカ公娼テアル此見地カラ私娼ハ政策上止ムヲ得ヌ場合ノ外默許スヘキテナイ人身賣買カ「ドウノコウノ」、ト云フ形式的博愛ハ取ルニ足ラヌ性慾ヲ強ク求ムル人々ノタメニ公娼ハ必要テアル公娼ノ安全ト改善ヲ計ルヲ良策ト信スル。
- 十、現在刺戟多キ都會生活ニ於テ性道德ノ向上シテ居ナイ意志薄弱ナ青年ノ居ル限り公娼ハ必要テアル。
- 十一、無産階級ヤ兵士達ノタメニ「セメテ」安價ナ性ノ惱ミノ解決場所ハ必要テアル。

十二、一般女子ノ節操ノ保護上公娼ハ必要テアル。

十三、現在ノ經濟組織カ男子全部ノ結婚乃至早婚ヲ許サ、ル限り公娼私娼ハ何レカノ形式ニ於テ永久ニ其跡ヲ絶タナイテアラウ此場合公娼制度ハ當然テアル。

十四、公娼ト直接關係ノアル人々ノ階級ト社會的生活ト思想カラ考ヘテ公娼ハ必要テアル公娼ノ必要ナル人々ハ廢娼論者ト同シ階級ノ人々テナイ而シテ彼等ハヨリ以上性慾ニ渴シテ居ル。

第三節 海外ニ於ケル花柳病豫防ニ關スル趨勢

此ニ順序トシテ歐米ニ於ケル現代ノ趨勢ヲ記シテ參考ニ供セムトス。

歐米ニ於ケル賣笑婦取締ノ近代ノ傾向ハ之ヲ概括スレハ賣笑婦ヲ公然認ムルコトノ法令ヲ廢止シ花柳病ノ豫防ニ關スル法令ヲ制定シテ感染豫防及治療ノ實行ト云フコトニ重キヲ置ク様ニナルニ至レリ（賣笑婦取締法ヲ表面上廢止セル國ニテハ職業的醜業婦ニ對シテハ自治團體ニ於テ毎週又ハ二週一回等醫學的検査ヲ受ケシムル處モアリトイフ）

一九二一年五月丁抹ノコツペンハーゲンニテ丁抹、英國フィンランド、獨逸、和蘭、諾威、瑞典等ノ國ニ依ツテ北歐羅巴赤十字社國際會議開羅ノ際次ノ如キ項ヲ決議シタリ。

職業的ニ賣淫ヲ營ム婦人ヲ認メテ之ニ關スル法令ヲ布クコトハ醜業ノ公認テアルノミナラス花柳病

ノ蔓延ヲ豫防スル効果ハナイモノテアル」ト云爲セリ。

次テ同年十二月、佛國、スペイン、ポルチエガル等西歐ノ代表者ノ會合セル花柳病豫防ニ關スル會議ニ於テ左ノ決議ヲ爲セリ。

「賣笑婦ニ對スル取締法令ハ花柳病豫防上ニ大ナル効果ハナイモノテアル其レヨリモ豫防的教育ト治療ノ獎勵ノ方カ肝要テアル」

其他歐洲ニ於ケル有力ナル會合ニ於ケル花柳病豫防ニ關スル意見ハ「賣笑婦取締ニ關スル法律ハ其効果ニ於テ疑ハシク女ノミヲ取締ルト云フコトハ効果少シ眞ノ花柳病豫防ハ一般公衆ニ對シ男女兩性何人タルヲ問ハス公平ニ取締リ治療ヲ強制スヘキテアル」ト云ヘルカ如シ。

英國ニ於テハ彼ノ有名ナルバトラー夫人ノ廢娼運動以來一八八四年之ヲ廢止シ賣笑婦取締規則ハナク花柳病ニ關シテハ一八八六年發布ノ傳染病豫防法ニ依リテ大體取締ヲ爲シ居ルモ英國ノ學者ハ伊太利ニハ賣笑婦取締法アルニモ拘ハラズ同國ノ微毒ハ遞増シ英國ニテハ賣笑婦取締法ナシト雖モ花柳病ハ伊太利程増加セスト云ヘリ、又英國ニテハ賣笑婦取締規則廢止後ハ軍隊ノ花柳病患者ハ減少セリトテ數字のニ之ヲ例證セリ而シテ其原因ハ妓樓カ禁止サレ一面早期ノ治療カ容易ニナリシニ由ルモノナリト主張ス。

印度駐屯ノ英國軍隊ノ花柳病ハ一八九五年賣笑婦取締規則ノ廢止後ニハ漸次減少セリト云フ。

英國花柳病撲滅國民委員會ノ理事長ネヴキール、ロルフハ日本ノ吉原ヲ引證シテ賣笑婦ヲ警察取締ノ下ニ限定シタ場所ニ置キ健康診斷ヲ行フコトハ表面立派テアルカ事實ハ豫想ニ反シテ病毒ノ巢窟ニ公衆ヲ誘ヒ入レルニ過キナイト言ヘリ。

其他英國領土内ノコロンボ、シンガポール等ニテモ賣笑婦取締規則ヲ廢止シテ體面ヲ保チ居レトモ果シテ英人ノ報告ノ如ク廢娼ノ成績良好ナリヤ否シンガポールノ如キ其後花柳病カ猖獗ヲ極メ居ルト信スヘキ消息ヲ傳ヘリ又英本國ニ於テモ花柳病ノ蔓延カ其豫防ヲ眞劍ニ考究シ論議セサルヘカラサル程刺戟ヲ與ヘタルコトハ英人ト雖モ承認セサルヲ得サルヘシ。

要スルニ歐米ニ於ケル現況ハ獨、佛、奧、伊、白、瑞西ノ一部等ハ賣笑婦ヲ公認シ一面花柳病ノ無料治療所等ヲ設置シ公衆ノ治療ニモ力ヲ盡シ英、丁抹、チエコ、スロバキア、印度、諾威、瑞典、米國等ハ賣笑婦ヲ認メス從ツテ之カ取締規定モ廢止シ公衆治療ニ力ヲ盡セリ。而シテ近代ニ於テハ後者ノ方法ニ加担セムトスル傾向多キ様テアルノミナラス花柳病豫防上合理的ナルカ如クニ主張セラル、ニ到レリ。然レトモ歐米ノ實狀ニ至リテハ未タ俄ニ信シ難キ節アリ又吾日本トハ民情ニ於テモ大ナル差異アルコト言フ要セサル處ニシテ歐米人ノ報告ヲ直チニ以テ鵜呑ミニ爲ス程吾人ハ輕卒ナルヘカラス。

第四節 廢娼論ト存娼論トニ對スル論評

廢娼論者ノ主張モ一部ニ於テハ傾聽ノ價值アリ一概ニ感情ノ主張ナリトシテ排斥スヘキニアラス存娼論者ノ力説スル處又大ニ理由アリ深ク考慮ヲ廻ラシ考究スヘキ國家ノ重大案件ナリ歐米諸國ニ於ケル賣笑婦取締制定ト其近代ニ於ケル傾向トハ又吾國ニ取リテハ好參考資料トシテ吾々カ將來花柳病豫防ノ上ニ參照スルノ必要アリトスルモ之等外國ニ於ケル賣笑婦制度廢止後ノ花柳病豫防上ノ成績ノ如キハ吾々日本人トシテ深ク考究論議シ比較研究ノ上ニアラサレハ輕々ニ信スヘカラスト思惟ス吾日本ニ於ケル廢娼論者ハ多クハ宗教家、教育家又ハ一部ノ政事家等ニシテ、醫學者ニシテ此事ニ論及スル人ノ多クハ存娼論者ナルカ如シ。

廢娼論者ノ云フ處一理アルモ廢娼後ニ於ケル對策ニ就テハ何等示シス所ナシ。吾々ハ體面上廢娼セヨト云フカ如キ漠然タル主張ニハ賛成スルヲ得ス吾々醫學者ノ立場トシテハ花柳病豫防上十分ナル對策ナカルヘカラス、單ニ臭イ物ニ蓋ヲスル主義カ英米ニ於ケル花柳病ノ蔓延トナリ之カ豫防ニ刺戟ヲ與ヘリトセハ吾々ハ之ヲ教訓トセサルヘカラス余ハ現代ノ遊廓妓樓ヲ存置セヨト云フニアラス文化ト共ニ花柳病ハ侵入シ蔓延スルモノナルヲ以テ吾人ハ之カ對策ヲ講セサルヘカラス紅燈綠酒ノ下ニ何等ノ制限ト保護トナク彼等ノ意思ニ任セテ求ムル者ニ爛レタル肉ヲ提供スルコトハ不可ナリト云フモノナリ。

吾日本ニ於テモ現代ノ人心ハ漸次遊廓娼妓ヲ遠サカリ私娼ニ向ヒツ、アリ遊廓及娼妓ハ漸次衰運ニ傾キ藝妓其他ノ密娼反ツテ歡迎セラル、ニ至リシコトハ事實ニシテ公娼ヲ存續スルモ現在ノ如キ形式ニテハ最早人心ニ添ハサルニ至レ人心ハ遊廓制度ヨリ散娼制度ヘ遂ニハ無娼(表面上ノ)制度ヘト進ミツ、アリ、サレト「花柳病ノ豫防ヲ如何センヤ」日本ニテモ遂ニハ廢娼トナルニ至ラム賣笑婦ニ對スル取締法規モ左マテ役立タサル様ナルヤモ知リ難シト雖モ其ハ一般公衆ノ智識尙ホ一段ノ進歩シタル曉ノコトナラム。

人身賣買ハ不可ナルカ故ニ明治五年ノ太政官布告ニ依テ禁止セラレ當時隨分嚴重ニ取締リタルカ如キモ遂ニ成効セサリキ之レハ現在ノ社會制度テハ單ニ取締規定ニ依ツテ改善スルコトハ困難ナラム廢娼論者等ハ人身賣買ハ公娼ノミナルカ如ク云ヘトモ現在ノ藝妓、酌婦等ノ多數ハ皆娼妓ト同様ナリ娼妓ヲ廢シタカラトテ日本ノ現狀ニ於テハ彼等ノ謂フ人身賣買ヲ絶無ニスルコトハ出來ナイ其代償ハ何レノ方面カニ膨レ出スノテアル社會ニハア、云フ階級(娼妓ニナル様ナ)人達カ絶ヘナイノテアル、取締ヲ受ケルノカ不當テアル健康診斷スルノカ人權蹂躪テアルト云フケレトモ社會公衆ノタメニハ一部ノ人ハ苦痛ヲ忍ハネハナラヌト思フ否苦痛テハナイ一面ニ於テハ彼等ノ保護テアル、況ンヤ如何ニ或一部ノ人達カ騒キ廻ツテモ未來永久ニ社會カラ賣淫婦……賣淫婦ニナル様ナ階級ノ婦人ヲ絶ツコト

ハ出來ナイ後カラ後カラト出來テ來ル多クノ教育者社會學者等ハ女子教育ノ普及女子ノ職業及收入ノ増加等ニ依ツテ賣笑婦ノ發生ハ自ラ消滅スルモノト豫想シタカ歐洲大戦中之等ノ諸問題ハ過分ニ實現シタケレトモ其結果ハ反ツテ賣笑婦ノ増加ヲ見タノテアル故ニ單ニ經濟上ノ問題ニノミ依ツテ賣笑婦ノ發生ヲ防止スルコトハ出來ナイ、之等賣笑婦カ擅ニ病毒ヲ傳播公衆ヲ不幸ニ陷レテモ賣淫婦ヲ默許スルノカ人道テアルト云フノテアラウカ、否賣淫ハ認メヌト云フカモ知レマカ其レハ理想テアツテ永久ニ實現シナイ空想テアルカラ相手カ惡イ何ンテモ廢娼論者ハ目ノ前ノコトノミヲ見テ居ル様ニ思フ但シ私ハ廢娼ニ絶對反對スル者テハナイコトヲ重ネテ言明シテ置ク花柳病ノ豫防ニ關スル對策ガ具體的ニ立ツナレハ何時テモ賛成テアルケレトモ今ノ廢娼論者ハ廢娼後ノ對策ヲ考ヘテ居ナイ様テアル、群馬縣カ公娼ヲ廢止シタル結果ハ私娼ノ跋扈トナリ止ムヲ得ス現在ノ制度ヲ採ルニ至ツタコトハ如何テアラウ不完全ナル醫學的取締ノ下ニ公娼同様ノモノヲ置クコトカ公衆保健上悅フヘキコトテアラウカ之レハ既ニ同縣ノ問題ノ處テ論シタ實況ニ依ツテ判斷ノツクコト、思フ寛永十七年吉原ノ夜間營業ヲ禁止スルヤ其反動トシテ市中處々ニ風呂屋ナル私娼カ現ハレタトノコトテアルカ群馬縣ノ例ニ似テ居ル而シテ又公娼ヲ廢止シテモ私娼ニ對シ花柳病豫防上ノ取締ヲナスコトカ必要テアル以上其レヲ行フニ於テハ公認テアル公娼同様テアルト云フコトニナルテハナイカ？矢張り猫ハ猫ヲヨシト云フコトニナル。

廢娼論者ノ言フ如ク賣淫ヲ自由營業トシテ然モ花柳病豫防ニ關スル取締ヲ徹底セシムルコトヲ得ルナラハ結構テアラウカ頗ル疑問テアル、娘ヲ賣リテ忌ムヘキ生活ヲ續ケシムルヨリハ寧ロ餓死スルノ優レルヲ採ルヘキテアルトハ論者ノ言ナルモ斯ル議論ニ對シテハ次ノ言カ報イラレルノテアル即チ親モ娘モ最初カラ斯ル場合餓死スル程ノ彈力ノ持チ合セカ無イ國民テアル七千萬ノ同胞中ニ五萬ヤ十萬ノ斯ル憐レナ者カ居ルノテアル斯ル國民ニ對シテハ餓死ヲ德憑スルヨリモ生キル途ヲ與ヘテ娼妓ニナル者ヲ皆無ニシタナラハ自ラ論者ノ希望ノ如ク解決スルニアラスヤ。

公娼ノ在ル地ニハ私娼カアル之レハ公娼カ私娼ヲ誘發スルノテアル公娼アルカ故ニ私娼カ跋扈スルトノ論ハ正シイテアラウカ、公娼設置附近ニ私娼ノアルコトハ事實トスルモ之レハ單ニ便宜トスルノミテ公娼ナクトモ其レ丈ケノ私娼ハ何レノ地ニカ存在スルニ相違ナイノテアル其例ハ現在澤山アル。廢娼論者ハ男子ノ性的衝動ヲ女性ニ比較シテ忍耐スヘシト言フモ同シ男子ニテモ個人ニ依リテ著シキ相違カアル況ンヤ男性ト女性ト同一ニ取扱ハムトスルカ如キハ天賦ノ生理的本能ヲ無視シタ非科學的ノ議論テアル生物ハ男性ニ於テ性的慾望ヲ求ムルコトノ強烈ナルコトハ自然ノ現象テアラネハナラス。

存娼論者ニ於テモ歐米ノ現況ニ鑑ミ其真相ヲ調査シ時代ノ進運ニ伴ヒ最モ合理的ナル方策ヲ立テ制度ノ改善ヲ圖ル必要カラウ單ニ食ハス嫌テハナラナイノテアル、英國花柳病撲滅委員會理事長ネブ

キール、ロルフカ吉原ヲ表面立派テアルカ事實ハ豫想ニ反シテ病毒ノ巢窟ニ公衆ヲ誘ヒ入レルニ過キ
 ヌト評シタル言ハ半面ニ味フヘキ閃メキヲ持ツテ居ル私ノ今日迄ノ統計ニ於テハ檢診延人員ニ對スル
 花柳病率ハ藝妓、酌婦ヨリモ娼妓ニ於テ最モ少ケレトモ花柳病ノ感染系路ノ調査ニ於テハ公娼カラス
 ルモノカ最モ多數テアル此矛盾シタル現象ハ何ヲ意味スルモノナルヤ娼妓ノ檢診回数ノ多キコト、接
 客數ノ多キコト、カ各々反對ノ結果ヲ生スルモノテハアルマイカ存娼論者ノ大ニ考究スヘキ點テア
 ル、檢診延人員ニ對スル有毒率ノ少イコトヲ以テ一概ニ律スルコトモ如何テアラウカ？

兎モ角國民保健ノ上カラ賣笑婦ヲ取締リ之カ醫學的檢査ヲ勵行シ治療ヲ加フルト云フコトハ現在ノ
 日本ニ於テハ誠ニ必要ナル止ムヲ得サルコト、思ハル、唯公娼ノ制度形式ニ就テハ現在ノ遊廓妓樓ノ
 如キハ大ニ改良スヘキ餘地カアル様ニ思ハル。

第五節 健康診斷有効論ト無効論トノ批判

健康診斷無効論者ハ現行ノ方法テハ不完全テアル現在行ヒツ、アル健康診斷ノ如キハ全ク形式テア
 ツテ殆ント効果ヲ認ムルコトハ出來ナイモノテアル健康診斷ヲ行フカラ公娼ハ安全テアルト思フノハ
 大ナル誤リテアルト主張シテ居ル英國テモ檢微制度ノ効果ニ就キ論議サレテ居ルカ無効論者カ優勢テ
 アルトノコトテアル我國テモ皮膚科ノ大家松浦有志太郎博士等ハ今日ノ檢微ハ太平洋洋ニ一本ノ昇爪ヲ

投スルカ如キモノテアルト云ハレテ居ル乍併私ハ必ラシモソウハ考ヘナイ今日ノ健康診斷カ缺陷ノア
 ルコトハ既ニ臨床診斷ト細菌血清學の檢査ノ成績トノ比較ニ於テ明カナル處テアツテ今日ノ檢診カ不
 完全テアルコトハ私モ知ツテ居ルカ之ヲ以テ健康診斷ヲ改善スヘシトノ理由ニハナルカ健康診斷ヲ廢
 スヘシ公娼ヲ廢スヘシトノ理由ニハナラナイ今日ノ健康診斷ニ於テモ相當ニ患者ヲ發見シ殊ニ急性期
 ノ感染力旺盛ナル時期ノ者ニ對シテハ殆ント之ヲ發見シテ治療ヲ加ヘ接客ヲ禁止シ得ル筈テアルカラ
 益々厲行シ且ツ改善ヲ圖ラネハナラヌト思フ純學問ト云フ一小局面ヨリ見レハ無効論者ノ謂ヘルカ如
 ク或ハ然ラムモ活社會ニ於ケル實際行政上ニ於テハ今日最モ有効ナリトセサルヘカラス今日吾國ニ於
 テ醫學的取締ナクシテ賣笑婦ヲ放任シ置クコトカ如何ニ危険テアルカハ嘗テ淺草ノ私娼ニ於テ多數ノ
 重症ナル有毒者アリシニ依リテモ明カナリ。

第二章 集娼制度ト散娼制度トノ利害

散娼ト集娼トノ利害ヲ性病豫防上ノ見地カラ比較シ之ヲ解決スルコトハ容易ノコトテナイ此ニ諸説
 ヲ綜合シ兩者ノ利害ヲ比較セム。

第一節 集娼制度ノ利益

- 一、日本ニ於ケル存娼論者中吾國ノ遊廓制度ハ花柳病豫防上良制度テアルカラ之ヲ繼續シナケレハナラヌト主張シテ居ル成程之レハ吾國華テアルカモ知レヌ若シモ之レカ散娼制度テ至ル處ニ連レ込ミ宿カアツテ賣笑婦カ所在ニ出沒シテ居ツタナラハ極メテ便利テ一寸引張ラレテ見タクナルテアラウ之レカラ電車ニ乗ツテ吉原州崎ト遠征シナケレハナラヌト思ヘハ下宿屋ノ二階テ諦ラメル様ナモノテアル。
- 二、集娼ハ總テノ取締ニ便利テアルカ散娼ハ取締カ困難テアル。
- 三、散娼ヲ許可シタナラハ自然之レ等類似ノ密賣淫(街娼)婦ヲ増加シ風紀ヲ益々頹敗セシムル様ニナル虞カアル。
- 四、集娼ハ診療制度カ徹底シ易イケレトモ散娼ハ其レニ比シ困難テアロウ。

第二節 散娼制度ノ利益

- 一、散娼ハ近代ノ人心ニ適合スルカラ一般公衆カ私娼ニ走ル機會ヲ少クスル利益カアル從テ私娼ヲ減スルコトカ出來ルカモ知レヌカ現在ノ集娼制度テハ私娼ヲ防止スルコトハ困難テアル、併シ集娼ノ利益ノ第三ニ述ヘタル如ク散娼カ類似ノ私娼ヲ誘發スルカモ知レヌ。

二、外國人ノ云フ如ク日本ノ公娼(集娼)制度ハ病毒ノ巢窟ニ公衆ヲ誘ヒ込ムノテアルト云フコトハ多少傾聴ノ價値ノアルコトヲ集娼制度ハ散娼制度ニ比シテ此傾キカ多イノテアル。

- 三、外國ノ例ニ依ルト散娼ノ有毒者ハ集娼ノ有毒者ニ比シテ概シテ少數テアル之レハ散娼カ客ニ接スル數カ少イカラ病毒授受ノ機會カ少イト云フコトハ確カナル事實テアル日本ニ於テハ比較スヘキ散娼カナキモ今日迄ノ検査成績ニテハ藝妓、酌婦等ニ比シ却テ娼妓ノ花柳病率カ少イコトニナツテ居ルコトハ已述ノ如シ、娼妓ト藝妓、酌婦トハ診断制度カ異ル、娼妓ハ檢診回數カ多キタメ檢診延人員ノ總數カ多クナルカラ患者ノ%カ少クナル結果ヲ生スルトモ思ハレル又治療制度ニ於テモ娼妓ハ藝妓、酌婦ニ比シ強制的ニ徹底シテ居ル結果健康診断ノ成績ニモ好影響ヲ及ホスヘシトモ考ヘ得ラル若シ同一程度ノ診療制度ヲ設ケタナラハ或ハ今日迄ノ統計ニ反對ノ現象ヲ齎サヌトモ限ラヌ。
- 四、集娼制度ニ於テハ自由ヲ拘束セラル、コトカ多イカラ疾病ノ場合ニモ強テ客ニ接セシメラル、コトカ少クナイカ散娼制度テアレハ早ク休養スルコトカ出來ル又客ニ疾病カアル場合ニモ之ヲ拒ムコトカ自由テアル。
- 五、集娼ハ一人テ接スル客ノ數カ多イカラ花柳病豫防上宜シクナイ散娼ハ之ニ反ス。

第三章 娼妓及妓樓制度改善ニ關スル私見

- 一、現在ノ遊廓制度ヲ廢シ散娼制度トスルコトカ利益テアルカ否カラ決定スルコトハ容易テナイカ娼

業ヲ可成目立ヌ様ニ營マシムルコトカ利益ヲアルト思フ其意味ニ於テ現在ノ遊廓ハ之ヲ改ムヘキテアル英國テハ多數ノ醫學者間ニモ散娼制度ヲ優レリトシテ或ハ一部分試驗的ニ散娼制度ヲ設ケテ見ルコトモ可ナラム。

二、現行ノ娼妓取締規則ハ斷然之ヲ廢止シ花柳病豫防ニ關スル法令ヲ制定シ該法令中ニ賣笑婦取締ニ關スル事項ヲ規定スルヲ良シトスヘシ。

三、娼妓ノ自由ヲ現在ノ如ク束縛シ窮窟ナル境遇ニ置クコトハ彼等ヲ社會ヨリ遠ケ世事情ニ迂ナラシメ又身體ノ束縛ハ却テ私娼ヲ望マシムルニ至ル故ニ或程度迄ハ彼等ノ自由ヲ保護スル要アリ娼妓ト抱主トノ間ニ於ケル前借金ハ事實上ノ人身賣買ナリ此習慣ヲ根絶セムニハ娼妓ノミナラス藝妓、酌婦其他ノ接客業婦ト抱主及之等兩者ト關係アル者ノ間ノ貸借契約ヲ非認シ又之等接客業婦ノ紹介營業ヲ禁シ違反者ヲ嚴罰ニ處スル規定ヲ設ケ之ヲ勵行スヘキテアル併シ吾國ノ現況ニ於テハ其目的ヲ達スルコト困難ナルヘク結局世態ノ改善人心ノ發達ニ俟タサレハ現狀ヲ打破スルコト能ハサルヘシ。

四、自ラ進ンテ賣淫ヲ營ム者又ハ娼妓タラムトスル者及自ラ之等ノ婦女ニ近ツカムトスル者ヲ絶對ニ抑止スルコトハ不可能ナリ密賣淫ヲ減少セシメムト欲セハ寧ロ之等ノ婦女ハ進ンテ公娼タラシムルヲ良シトス藝妓、酌婦其他何人ニテモ希望者ニハ許可スルヲ得策トスト主張スル者サヘアリ密娼防止ノ意味ニ於テハ又一理アリト云フヘク尙ホ密賣淫ノ常習者ニ對シテハ強制登録ヲ行ヒ公娼トシテ定期健康診断ヲ行フヘシ。

五、娼妓ト抱主トノ貸借關係ヲ非認スルト同時ニ娼妓ノ稼高ニ對スル第三者ノ利益蠲斷ヲ禁セサルヘカラス。

六、妓樓ニ於テ酒類ノ販賣ヲ禁スヘシ之レ「アルコール」ハ良心ヲ痲痺シ種々ノ弊害ヲ醸スノミナラス花柳病豫防上ニモ飲酒ハ直接間接ニ有害ナレハナリ之レハ斷シテ禁スヘキテアル同時ニ妓樓ニ於ケル藝妓モ禁スヘシ。

第六編 花柳病豫防施設ニ關スル私見

第一章 賣笑婦ノ取締及豫防治療ニ關スル施設

第一節 取締ノ方針

花柳病ハ主トシテ賣笑婦カラ傳播スルト云フコトカ明カナル以上社會公衆ノタメ賣笑婦ノ取締ヲ勵行セサルヘカラス、例ヘ賣笑婦ヲ如何ナル制度ノ下ニ置クモ之レカ衛生的取締ハ益々厲行セサルヘカラサルコトハ將來絶對不變ノ原則トセサルヘカラス、而シテ衛生的取締ノ圏外ニ於テハ賣淫婦ナルモノ、絶滅ヲ期スル方針ヲ採ラサルヘカラス、サレト此事タルヤ極メテ困難ナル問題ナリ。

第二節 診療制度ノ整備

娼妓、藝妓、酌婦等ノ診療制度ノ充實ヲ計ル必要アルコトハ己ニ明ナリ娼妓ニ對スル診療制度ハ稍備レリト雖モ尙ホ缺陷少カラス藝妓酌婦ニ對シテハ甚タ不充分ナル故ニ之等接客業婦ニ對シテ診療制度ヲ普及セシメサルヘカラス以下之カ現況ニ鑑ミ其要領ヲ列舉説述スヘシ。

一、診断回数ノ統一

診断回数ノ區々不統一ナルコトハ己ニ述ヘタリ之レカ統一ヲ計リ最モ適當ナル期間ニ於テ検査ヲ受ケシムルノ方法ヲ定メサルヘカラス藝妓、酌婦ト雖モ少クトモ一週一回ハ健康診断ヲ受ケシムル方法ヲ採ルコトカ必要ナルト思フ現在ニ於テハ診断ノ間隔長ク効果カ少イノテアル。

二、健康診断醫ノ選定

接客業婦ノ健康診断ノ成績ハ其診断醫ノ手腕權能及緊張味ノ如何ニ依ツテ著シキ相違ヲ來スモノテアルカラ賣笑婦ノ診療ニ従事スル者ノ選定ト其教育ト云フコトハ花柳病豫防上極メテ大ナル影響ヲ有スルモノテアル府縣ノ技術官ヲ以テ之ニ當ラシメ又時々學術ノ補習ヲ加ヘ常ニ彈力ヲ失ハシメサルコトカ必要ナル賣笑婦ノ診療ヲ開業醫ニ委任スルカ如キハ充分ナル成績ヲ舉クルコト困難ナリ。

三、健康診断及治療ノ徹底

娼妓ハ勿論藝妓、酌婦等ノ接客業婦許可ノ際ハ嚴重ナル健康診断ノ下ニ細菌及血清検査ヲ行ヒ帶患者ハ治療ノ上許可スルコト、平素ノ定期健康診断ニ於テハ毎月少クトモ一回以上細菌検査ヲ行ヒ三ヶ月一回位血清検査ヲ行フコトハ現在ノ健康診断ノ成績ニ鑑ミ是非共行ハネハナラヌコト、思フ。

花柳病ノ治療ハ又豫防ノ大部分ナリトス然ルニ娼妓、藝妓等ニ對スル淋菌検査及ワ氏反應検査ノ成績ニ依レハ帶患者多數ナルハ已述ノ如シ故ニ治療ノ徹底ヲ期セサルヘカラス娼妓ノ退院ノ如キハ退院後ノ追撃的治療ノ能否等ヲ考慮シ慎重ニ取扱フヘシ現在ノ診療機關ハ概シテ不完全ナルヤノ感アリ之

カ改善ヲモ圖ラサルヘカラス

二二四

四、治療費入院費等ノ負擔

治療費入院費等ハ總テ公費トスヘシ例ヘ抱主或ハ組合等ノ負擔ト稱スルモ本人ノ負擔ニ歸スヘク假ニ抱主組合等ノ負擔ニ止ムルモ如斯ハ花柳病治療ノ完全ヲ期スルニ支障アルヘシ

五、通院治療

各府縣ノ娼妓病院ニ於テハ娼妓ノ通院治療ヲ取扱フモノト然ラサルモノトアルカ如シ當然入院ヲ命スヘキ状態ニアル者ヲ除クノ外娼妓ノ通院治療ヲ認ムルコトハ却テ輕症患者ニ治療ノ普及徹底ヲ見ルヘク又疾病ノ早期發見ノ機會トモ成ルヘシト思ハル。

第三節 豫防ニ關スル施設

一、豫防設備

賣笑婦ノ營業所ニ於テハ各室ニ必ズ洗滌所ヲ備ヘシメ使用ニ便ナラシムヘシ、從來ノ如ク一妓樓ニ一ヶ所位ニシテ其レモ便所或ハ浴場等ニ置クカ如キハ其都度使用スルニ不便ニシテ隨テ之レカ使用ヲ省略スル場合少シトセス故ニ各室ニ設クル必要アリ之レハ規定ヲ以テ厲行セシムヘキナリ若シ各室ニ此設備ナキモノハ營業ヲ許可セサルコト、スヘシ、婦人ニ於ケル事後ノ洗滌ハ其効果乏シキヲ稱フル

モノアルモ性交直後ニ之ヲ厲行シタナラハ相當ノ效果ヲ舉ゲ得ヘシト信ス、嘗テ神奈川縣ニ於テ娼妓ニ對シ洗滌豫防方法ヲ勵行セシメタル成績ニ依レハ效果ヲ認ムルコトカ出來ル即チ明治四十四年四月ヨリ着手シ十二月迄淋菌ヲ標準トシテ行ヒタル成績ニ依レハ淋菌保有者二五、七九%ヲ一四、一八%即チ約半數ニ近キ減少ヲ見タリト云ヘリ。

男子ノ消毒的洗滌ハ婦人ニ比シ其豫防成績極メテ確ナルモノナルヘキハ歐洲大戰時ニ於ケル米軍ノ成績ニ依テ十分認ムルコトヲ得ルト思フ米軍テハ消毒的洗滌後メチニコフ、ノクリーヲ塗布シテ交接後十二時間以内ノ者ニ於テ八〇、%ハ確實ニ豫防シタ、二時間以内ニ行フナレハ豫防ハ一層確實テアルタロウト云フテ居ル、只英國ノ花柳病撲滅國民委員會ハ花柳病ノ個人豫防處置ニ餘リ重キヲ置イテ居ラス其レハ無智ナル一般公衆ニ此事ヲ勸ムルモ却ツテ豫期ニ反シタ結果ヲ生ムト云フノテアル、故ニ自家消毒ト云フコトハ餘リ宣傳シナイテ公衆ノ豫防處置所ヲ設ケテ其所テ豫防處置ヲ施セリト云フ日本テモ各遊廓ヤ待合ノ出口ニ豫防處置所ヲ設ケテ出テ來ル人ヲ一々處置シテヤツタラ如何タロウ日本テ斯フ云フコトカ繁昌スルテアロウカ最モ英國ノ豫防處置所ハ同時ニ又實際上治療所ノ意味ニモナツタトノコトテアル、英國ノ此ノ素人自家消毒獎勵不可論ニ對シテ英國國內ニ起ツタ花柳病豫防協會ナル團體ハ全然反對ノ論ヲ主張シ個人的豫防方法ハ最良ノ手段テアツテ性交直後ニ早ク消毒スルコトカ有効テアルト云ツテ居ル此性交直後ノ消毒カ實行確實テアルナラハ男子テアルカ故ニ一層良キ成績

二二五

ヲ得ルニ違ヒナイト私ハ信スルノテアルカ日本一般ノ公衆ニ此事ヲ懲懲スルモ今日ノ處テ普及ハ六ヶ敷イコト、思フノテアル、故ニ各室ニ洗滌裝置ヲ備ヘ娼婦自身ノ豫防處置ヲ行フト同時ニ客ニ對シテハ相手方ノ娼婦ヲシテ直ニ豫防處置ヲ行ハシムルコトヲ教育スルヲ最モ良シト考ヘルノテアル此事タルヤ或ハ理想テアルト云フ人カアルカモ知レサルモ何時迄モ現狀ニ止ルヘキテナイト思フカラテアル。

コンドームノ使用獎勵モ可ナルヘク豫防軟膏等モ使用セサルニ優ルヘシ

二、豫防ニ關スル娼婦ノ教育

娼妓ニ對シ花柳病豫防ニ關スル實際上ノ智識ヲ授クルコトカ必要テアルカラ娼妓タラムトスル者ニ對シテハ其許可前ニ於テ花柳病及其豫防方法ニ關シ一定ノ期間教育シテ實際上ノ處置ニ關シ十分習得シタル後ニ許可スル様ニスヘシ其教育ニ付テハ感染狀態等ハ活動寫真等ヲ以テ通俗平易ニ實況ヲ示シ視覺ヲ利用シテ智識ヲ注入スルヲ可トセム又彼等ノ營業所ニハ豫防方法ノ實地應用ノ仕方ニ付テ智識アル婦人ヲ以テ指導監督者トセシムルナラハ一層良成績ヲ擧ケ得ヘシ。

三、密娼ノ取締厲行

衛生的取締ノ圈外ニ於テハ賣笑婦ナルモノ、絶滅ヲ期スル(例令困難ナリトスルモ)方針ヲ採ル以上密娼ノ取締ハ厲行セサルヘカラス近年私娼ノ檢舉漸ク減少セルハ之ヲ取締ノ弛緩セルヲ語ルモノニ

アラサルカ無檢診賣笑婦ノ跋扈カ危險ナルカタメ公娼制度ヲ認ムルニ於テハ密娼取締ヲ厲行スヘク檢舉ノ厲行不可能ナラハ醫學的取締ノ圈内ニ入ラシムルノ要アリトス而シテ密娼ヲ檢舉シタル場合ハ懇切ニ善導セサルヘカラス、私娼取締ニ當リ偶然發見セル私娼ニアラサル程度ノ者ヲ往々處罰スルゴトアルハ不可ナリトス。

私娼檢舉ニ當リ私娼ノミヲ罰スルノハ効果少シ同時ニ抱主又ハ貸席及相手方ナル男子ヲモ嚴罰ニ處スヘキテアル米國テモ男女共ニ罰スヘシトノ輿論ハ盛ンテアル。

第二章 一般的豫防施設

第一節 治療費用ノ輕減ト治療所ノ設置及治療督勵

花柳病ノ豫防上一般公衆ニ花柳病ノ治療ヲ厲行セシムルコトハ最モ必要ナルコトニシテ今ヤ各國之カ施設ニ努メツ、アル狀態ナルモ吾國ニ於テハ現在ノ如キ診療費用ノ過重ハ中産階級以下ニハ堪ヘ難ク到底完全ナル治療ヲ望ミ難シ治療ノ普及ハ先ツ第一ニ治療費用負擔ノ輕減ヲ圖ルコトカ肝要テアルカ故ニ各地ニ公費其他ヲ以テ無料又ハ減額治療所ヲ設置シ一般公衆ノ治療ニ便ナラシメ、花柳病ノ傳播ヲナス處アル者ニハ強制治療ヲ命スルコトカ必要テアル、サレト花柳病ノ豫防ハ賣笑婦ニ對スル醫學的取締ヲ嚴ニスルノミニテハ不充分ナリ一面取締ニ漏レタル然カモ治療ヲ要スル者カ治療ヲ受ケ易

キ方法ヲ講スルノ必要最モ大ナリ、併シ日本ニ於テ如斯診療機關ヲ設クルモ之カ正シク活用セラル、テアロウカノ懸念ナキニアラサルモ運用宜シキヲ得ハ成績ヲ擧ケ得ヘク殊ニ大都市ニ於テハ必ス好結果ヲ以テ繁昌スヘシト信スルモ若シモ歐米ニ於ケルカ如ク患者ヲ追及シ或ハ届出ヲナサシムル等ノ方法ヲ採ラハ失敗ニ終ルヘシ寧ロ患者ヲ暗々裏ニ誘導スル方針ヲ採ルヲ良シト信スル、花柳病ハ都會ニ多キカ故ニ都會ニ於テハ特ニ豫防施設ヲ厲行スルノ要切ナリ

遺傳微毒、流産、死産、初生兒、膿漏眼等ノ患者ニ連繫シテ其兩親ニ治療ヲ奨励スルコト必要ナルモ露骨ニ失スルトキハ却テ不可ナリ之等ハ其診療ニ關スル醫師、産婆等ヨリ誘導セシムル方針ヲ採ルヲ良方法ト思ハル。

第二節 病毒播布者ノ取締

交通不便ナル奥地ニハ花柳病ノ蔓延稀薄ナリ而シテ之等奥地ニ病毒ヲ齎ス者ハ都會トノ交渉アル者ニシテ新ニ雇入タル料理店、飲食店、宿屋等ノ女、出入稼人、工女、學生、出寄留者及除隊兵ノ歸還、移住者等ナリ故ニ病毒蔓延ノ防止ニハ之等ノ者ニ對シテ注意ヲ拂ハサルヘカラス料理店、飲食店、宿屋等ノ雇女ニ對シテハ官憲ノ手ニ依リ嚴重ナル健康診断ヲ行フニアラサレハ許可スヘカラス其他ノ者ニ對シテハ疾病發見困難ナルヘキモ青年團處女會等ニ於テ自治的ニ保健状態ノ監視ヲ行フカ如キモ可ナラム。

工場ノ職工及學生、生徒ニ對スル風紀ノ取締ト健康診断及治療ノ方法ヲ講セシムルコト。

第三節 墮落セムトスル婦人ノ救濟

貧困ノタメ身賣セムトスル者又ハ墮落セムトスル者ニ對スル社會的施設ハ必要ナル墮落セムトスル婦人及密賣淫婦ヲ收容シテ一定ノ職業ニ就カシムルタメ授産場(工場テモ農場テモ)ノ如キモノヲ設ケテ長期間收容シテ彼等カ再ヒ社會ニ出テ、實淫ヲ働カヌ様保護ト監視トヲ與フルコトハ現社會ニ於テ必要テモアロウシ誰レモ稱フルコトテアルカ之等ノコトハ實際ニ於テハ際限ノナイコトテ効果ハ吾人ノ考フルヨリ少イモノテアルト思フ一旦墮落セル婦人ハ容易ニ復活セヌモノテアルカラ場合ニ依リテハ寧ロ公娼ニスル方カ良イカモ知レヌ。

賣笑婦ヲ早ク正業ニ就カシムル様ニスルト云フコトハ誰レモ唱フルコトテアツテ浮浪ノ密賣淫婦ヲ早ク正業ニ就カシメ之等ノ徒輩ヲ一人テモ少クスルコトハ望マシキコトナルモ日本ニ於ケル現在ノ公娼ハ現在ノ制度ニ於テハ一人ニテモ廢業スレハ抱主ハ更ニ又之ヲ補充シテ居ルカラ完全ナル取締ヲナシ得ル公娼ハ寧ロ可成永續セシメテ新ナル純ナル處女ノ補充ヲ防クコトカ得策テハアルマイカ(人ノ顧ミサル老婦ヲモト云フノテハナイ程度問題テアル)花柳病豫防ヨリ云フモ新ナル年若キ賣笑婦ハ急

性ノ花柳病ニ犯サレ易キヲ常トスルモノテアル、浮浪ノ私娼ハ之ヲ速ニ正業ニ就カシムルヲ得ハ可ナ
ラムモ抱主ヲ有スル公私娼ハ抱主ヲ如何ニ處理スヘキヤ之レ寧ロ大ニ考究スヘキ問題テアル。

第四節 賣藥ニ依ル花柳病治療ノ弊害防止

一般人カ賣藥ヲ過信シテ花柳病ノ治療ヲ之ノミニ依ラムトスルナラハ其レハ著シキ誤謬ニシテ花柳
病豫防上ニ大ナル缺陷ヲ招來スルモノテアル故ニ花柳病豫防ノクメニハ各國ニ於テモ賣藥ノ誇大廣告ヲ
取締ツテ居ル吾國ニ於テモ近時之等ノ弊害ヲ漸次増加セムトシツ、アルノテアルカラ適當ニ取締ヲナ
シ公衆ノ迷惑ヲ除カサルヘカラス現在吾國ニ於テ一般民衆カ花柳病治療ノタメ幾何位賣藥ヲ使用シツ
、アルカラ知ルハ又花柳病豫防上ノ資料トシテ必要ナルコトナルヘシ、數縣下ニ於テ比較的多額ニ賣
レル花柳病藥ニツキ大正十二年中ノ賣高ヲ調査セルニ私ノ調査範圍テハ富山縣ノ微毒藥ドクトリ丸ノ
百六萬八千六百四十圓、淋病専門藥ノ六十二萬八千二百圓三重縣ノ治疾丸十七萬八千七百八十九圓等
ノ賣高カ最も多ク之等全部眞ノ花柳病ノタメニ用ヒラレタルヤ否ヤハ不明ナルモ賣藥ニ依ル多數ノ花
柳病患者ノアルコトハ察知スルヲ得ヘシ。

百六、比較的多額ニ賣レル 花柳病藥名並ニ賣高 (大正十二年)

縣名	微毒藥		淋病藥	
	方名	賣上額	方名	賣上額
富山	微毒藥志つけ下 ドクトリ丸	一、〇六、四〇〇	經驗有功 淋病専門藥	六六、三〇〇
滋賀	微毒藥用ドクサ ラエ下毒丸		排淋	二、五五〇
京都			複方サントール	六、八六〇
廣島	六六丸 タニ六六丸	一、八六、四〇〇 一、五九、二〇〇 一、〇三、〇〇〇	六六〇	二、六六〇 一、〇三、〇〇〇 一、〇三、〇〇〇
鹿兒島	家傳 弘法丸 濕氣 毒おろし	一、七〇〇 一、三〇〇	淋疾特效藥 ベボン丸 治淋湯	五、〇〇〇 四、〇〇〇 五、〇〇〇
兵庫	猿頭丸 外川丸 無具沃度ホルム 沃度ホルム	四、〇〇〇 一、三三〇 一、〇〇〇	ホオチリツ	三、五〇〇
三重	治疾丸	一、七、七九〇	淋神	一、七、三〇〇

縣名	毒藥		淋病藥	
	方名	又賣上額	方名	又賣上額
三重	全身毒下シ	一、三〇〇円	淋消	二、四〇〇円
			淋消球	一〇、三三〇円
			淋タール	一、〇〇〇円
石川			淋治産	
新潟	梅毒藥	一、〇〇〇円		
	通シ丸	一、〇〇〇円		
愛媛	解凝解毒丸	八、六〇〇円	淋病	一、三六〇円
			淋毒藥	
福井	ひゑ大妙藥	三、三〇〇円		

縣名	方名	又賣上額	方名	又賣上額
福井	瘡毒丸	一、〇〇〇円		
	微毒丸	一、〇〇〇円		
群馬馬前橋市内	微毒藥	三、七〇〇円	淋病藥	二、六〇〇円

第五節 公衆教育ト指導

一、宣傳

花柳病ノ豫防撲滅ニ關スル運動ヲ起スコトカ最モ必要ナリ之レニハ公私ノ團體ヲ以テ活動スルヲ適當トスヘク講習會、講演會、展覽會、活動寫眞會等ノ開催ニ依リテ青年男女ノ教育ヲ施シ又「ボスタ」 「パンフレット」等ヲ發行シテ花柳病ノ智識ヲ普及シ且施療所ノ宣傳ニ利用スヘシ。

二、青年男女ニ對シ性ト花柳病ニ關スル教育

青年男女ニ對シ性及花柳病ニ關スル事項ノ教育ヲ今少シ開放的ニスルコトカ適當ナリト思フ殊ニ村落ノ青年男女ハ都會ニ於ケル深窓ノ子女トハ大ニ其日常生活ヲ異ニシ早クヨリ常ニ性ニ關スル下劣野卑ナル談話ヲ以テ刺戟セラレツ、アリ之等ニ對シ正シキ性ノ教育及ヒ花柳病ニ關スル智識ヲ與フルコ

トハ毫モ弊害ナキノミナラス寧ロ弊害ヨリ救フモノナリ。

中等學校卒業間際ノ男女學生ニ對シテハ性ト花柳病トニ關スル教育ヲ施スヘキテアル現在中等教育ヲ終ヘタル者ニシテ性ト花柳病トニ關シ正シキ理解ヲ有スル者ハ少イデアラウ如斯ハ甚タ遺憾テアル、餘リニ秘密主義ヲ取ルト云フコトハ却テ弊害ヲ醸シ易キモノテアル此事ハ獨リ日本ノミテハナイ北米合衆國保健局及各州保健局指導ノ下ニ行ハレタル性病撲滅事業最初ノ二ケ年ノ業績報告「二年の戦ひ」ニ次ノ様ナコトカ告白シテアルノハ吾人カ大ニ味フヘキコトテハアルマイカ。

「ずつと昔から誤つた慎みが、人々が性病に就て明らさまに論議するのを妨げた結果、性病は廣く浸淫してしまつた。かくて性病は性的不攝生の罪を犯せる者と同時に何等罪なき弱者をも痛く惱ましつゝ無智の暗の世界に榮えてきた」

三、風紀改善ト娛樂機關ノ設備

風紀改善ノタメ青年團處女會等ニ對シ精神教育並ニ適當ナル指導ヲナシ又運動、競技ノ普及獎勵娛樂機關ノ設備等必要ニシテ適切ナリト思ハル。

第六節 花柳病豫防法ノ制定

花柳病豫防法ヲ速カニ制定スヘシ之レニ依リ花柳病豫防ニ關係アル事項ヲ統一規定スヘシ、サレト

花柳病患者ノ届出及強制治療ニ關スル規定ハ日本ノ現狀ニ於テハ實行困難ナルノミナラス却テ患者ノ治療ヲ妨クルノ結果ヲ生スルノ虞アルヘシト信スルカ故ニ之ハ寧ロ適當誘導スルノ方法ヲ講スルヲ可トスヘシ醫師カ花柳病患者ヲ診斷シタルトキハ其治療及他人ニ感染ヲ豫防スヘキ必要ナル注意ヲ與フルコトヲ規定スルハ妨ケナシト思フ但シ賣笑婦ニ對シテハ強制檢診治療及届出ノ規定ヲ設ケサルヘカラス。

花柳病ノ豫防上患者ノ數ヲ知ルコトハ必要ノコトナレハ醫師ハ毎月其診療ニ係ル花柳病ノ數ヲ行政官廳ニ届出ツルコトヲ規定スヘシ。

夫婦間ヲ除クノ外自己ニ花柳病ノ有ルコトヲ知リツ、性交ニ依リ之ヲ感染セシメタル者ハ處罰セラレ且ツ感染セシメラレタル者ハ損害賠償ノ要求ヲナシ得ルコトヲ規定スヘシ。

醫師カ其診療ニ係ル花柳病患者ノ感染源カ賣笑婦ナルコトヲ知リタルトキハ當局ニ届出シムヘシ。山師的醫師及賣藥廣告等ノ取締ヲ嚴ニスル規定ヲ設クヘシ。

第七節 豫防當局間ノ聯絡

徴兵検査ニ發見セル患者、花柳病ノタメ歸郷除隊セラレタル患者等ノ處置ニ關シ陸海軍當局ト十分ナル聯絡ヲ定メ之レカ治療ヲ完全ニ行ハシムル方法ヲ講スルコト及其感染源ニ對シテ調査シ適當ナル

處置ヲ講スヘシ。

兵卒ニハ其傳染セル婦人ヲ自白セシメ之レヲ當該官憲ニ通知シ婦人ノ治療ヲ施サシムル方法ヲ講スヘシ。

開業醫師ニシテ兵卒ノ花柳病ヲ治療シタルトキハ當該部隊ニ通知スヘシ。

花柳病豫防ニ關スル費用ハ國費ヲ以テ支出スルヲ最善ノ方法トス。

第八節 花柳病ニ關スル調査ノ必要

花柳病ニ關スル日本ノ實狀ヲ調査研究スルノ必要アリ吾國民間ニ於ケル花柳病ノ蔓延狀況ノ如キ未タ完全ナル調査ナキハ遺憾ナリ各府縣ニ於テ之カ調査ヲ行ハムコトヲ切望ス中央政府ニ於テモ適當ナル調査機關ヲ設ケテ調査スヘシ。

第九節 其他ノ豫防施設ニ就テ

以上ノ外一般的ニ患者ノ發見、感染源ノ探索治療ノ追及等ハ理想的ナルモ日本ニ於テハ却テ不結果ヲ招來セサルヤ、結婚時ニ於ケル健康證明書ノ提出ノ如キ實行出來ルコトテハナイノテアル何所迄信ヲ置クニ足ルテアロウカ、花柳病患者ノ結婚禁止ハ治療施設トノ聯絡ヲ完全ニセサレハ却テ病毒ヲ散セシムル様ノ結果ヲ來サソルカ。

早婚獎勵ノ如キモ現時ノ社會狀態ニ於テハ實行困難ナルノミナラス花柳病患者カ未婚者ノミニアラサルヨリ見テモ餘リ期待出來サルヘシ龜田威夫氏カ嘗テ横濱ニ於テ開業二ケ年間ニ觀察シタルニ二千二人ノ花柳病患者ニ就キ調査報告セル處ニ依レハ有妻者ハ四九、%獨身者ハ五一、%ナリシト云ヘリ人類ハ性慾ノ變化ヲ要望ストハ心理學者ノ唱フル所ニシテ新シキヲ求ムルノ結果ハ悲慘ナル家庭ヲ現出スルニ至ル慎ムヘキナリ。